

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画に基づく事業)

令和7年1月10日

協議会名： 丸亀市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域公共交通バリア解消促進等事業(バリアフリー化設備等整備事業)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
琴参タクシー(株)	スロープ付きタクシー車両導入 1台	-	A	計画通り事業は適切に実施 された。	A	計画通り事業は適切に実施 された。	要介護者等が快適に外出できる よう、引き続き移動の円滑化 を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画に基づく事業)

令和7年1月10日

協議会名: 丸亀市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
丸亀市	本島コミュニティバス 本島港～笠島～本島港 計画運行日数 366日 計画運行回数 1,830回	〈前回の評価結果の概要〉 バリアフリーに配慮した車両の導入や島民の生活にあったダイヤの設定について検討する。また、収支率向上のため情報発信を行い来訪者の利用促進を図る。 〈評価結果の反映状況〉 ・島民との意見交換を行い、JA本島出張所前にバス停を新設した。また、航路との接続以外にも島内での移動に配慮したダイヤ設定を行い、1日5便から6便に増便し、運行ルートに関しては本島市民センター(診療所)バス停を1便あたり2回通過するよう変更し利便性の向上を図った。(令和6年10月～) ・Google Mapでの路線検索で英語表記を追加し、来訪者の利便性向上を図った。(令和5年5月～)。 ・75歳以上の高齢者、毎月20日の運賃無料キャンペーンを実施し、利用者の拡大を図った。(令和5年6月～)。 ・航路との接続に配慮したダイヤとしている。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	【目標達成率】116% (目標:3,650人/年) 【利用者数】4,234人/年 (対前年比:90.3%) (対前々年比:140.8%) 【1便あたり利用者数】2.3人 【収支率】2.7% (対前年比-2.0%) (対前々年比-2.3%) 引き続きバリアフリーに配慮した車両の導入を検討する。また、収支率向上に向け、ホームページやGTFSデータを活用した情報発信を行い来訪者の利用促進を図る。

琴参バス(株)	綾歌宇多津線 綾歌市民総合センター～郡家 郵便局～宇多津駅南口 計画運行日数 366日 計画運行回数 2,308回	＜前回の評価結果の概要＞ 利用者のニーズの集約と乗降 センサーを活用した利用状況 により、効率的かつ利便性の 向上に向けた運行を検討する。 ＜評価結果の反映状況＞ ・利用状況により経路の見直し を行い効率性の向上を図った。 (令和6年10月～) ・75歳以上の高齢者、毎月20 日の運賃無料キャンペーンを 実施し、利用者の拡大を図っ た。(令和5年6月～)。 ・市内の小学校においてモビリ ティマネジメント教育を実施し、 新規利用者の掘り起こしや啓 発活動を行った。 ・丸亀垂水線(幹線バス)との 接続については、乗換を考慮し たダイヤとしている。	A	計画通り事業は適切に実施 された。	A	【目標達成率】124.2% (目標:42,160人/年) 【利用者数】52,365人/年 (対前年比:112.1%) (対前々年比:144.8%) 【1便あたり利用者数】 22.7人 【収支率】20.7% (対前年比+2.8%) (対前々年比+6.2%)	クーポン付き乗車券の発行や 丸亀市と連携しサイクルアンド バスライドの導入など、ターゲッ トを絞った更なる利用促進事業 に取り組む。 引き続きバスロケーションシス テムの乗降センサーを活用し 路線運行の効率化を検討して いきたい。 GTFS-JPにてオープンデータ 化に取り組み情報発信に努め る。
----------------	---	--	----------	------------------------------	----------	--	--

琴参バス(株)	丸亀東線 三谷団地前～飯山市民総合センター～宇多津駅北口 計画運行日数 366日 計画運行回数 2,308回	＜前回の評価結果の概要＞ 利用者のニーズの集約と乗降センサーを活用した利用状況により、効率的かつ利便性の向上に向けた運行を検討する。 ＜評価結果の反映状況＞ ・利用状況により経路の見直しを行い効率性の向上を図った。(令和6年10月～) ・75歳以上の高齢者、毎月20日の運賃無料キャンペーンを実施し、利用者の拡大を図った。(令和5年6月～)。 ・市内の小学校においてモビリティマネジメント教育を実施し、新規利用者の掘り起こしや啓発活動を行った。 ・レオマ宇多津線(幹線バス)との接続については、乗換を考慮したダイヤとしている。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	【目標達成率】143.5% (目標:32,370人/年) 【利用者数】46,478人/年 (対前年比:105.4%) (対前々年比:150.3%) 【1便あたり利用者数】20.0人 【収支率】18.5% (対前年比+1.5%) (対前々年比+5.5%)	クーポン付き乗車券の発行や丸亀市と連携しサイクルアンドバスライドの導入など、ターゲットを絞った更なる利用促進事業に取り組む。 引き続きバスロケーションシステムの乗降センサーを活用し路線運行の効率化を検討していきたい。 GTFS-JPにてオープンデータ化に取り組み情報発信に努める。
----------------	--	---	----------	-------------------------	----------	---	---

事業実施と生活交通確保維持改善計画(又は地域公共交通計画)との関連について

令和7年1月10日

協議会名:	丸亀市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	丸亀市は香川県の海岸線側のほぼ中央部に位置し、中讃地域の核となる市である。 市内には、市外及び県外へ通じるJRと琴平電鉄が東西に走っており、丸亀コミュニティバスはこれらの幹線交通に通じる支線としての役割を果たしている。そのうちフィーダー系統の綾歌宇多津線及び丸亀東線は幹線系統の丸亀垂水線、丸亀西線、レオマ宇多津線と接続し、主要な公共施設や学校施設、商業施設などの利用者の足としての役割も果たしている。 また、自家用有償旅客運送の本島コミュニティバスは、公共交通空白地域である島民の買い物や通院、通学など日常生活に必要不可欠な交通手段として機能している。 しかしながら、自家用車の普及や人口減少により、コミュニティバスの運営を維持するのは厳しい状況にある。 このため、地域公共交通確保維持事業により、丸亀コミュニティバスの綾歌宇多津線及び丸亀東線、本島コミュニティバスを確保、維持し、市民の福祉の向上と活性化を資するため生活交通手段を存続させていくことが必要である。

丸亀市地域公共交通活性化協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(令和6年度)

丸亀市基礎データ

合併状況:平成17年3月に1市2町が合併

人口:110,888人(令和6年10月現在)

面積:11,183平方キロメートル

【本島町】

人口:235人(令和6年10月現在)

面積:6.75平方キロメートル

丸亀市における主な公共交通概要

○鉄道・軌道 JR四国(予讃線)、高松琴平電気鉄道(琴平線)

○バス

(幹線)

- 丸亀コミュニティバス(丸亀垂水線、丸亀西線、レオマ宇多津線)
丸亀駅を起点とし、旧飯山町と旧綾歌町主要施設を經由し3路線で市内を運行するコミュニティバス

・島田・岡田線

NEWレオマワールド停留所、琴電岡田駅停留所、島田停留所で丸亀コミュニティバスとつながり、富熊西沖バス停留所で坂出綾川線と接続する。飯山町、綾歌町から坂出駅まで主に国道438号を走る民間事業路線

(フィーダー)

- 丸亀コミュニティバス(綾歌宇多津線、丸亀東線)
丸亀駅を起点とし、2路線で市内を運行するコミュニティバス
- 本島コミュニティバス
離島地域である本島地区を走行する自家用有償旅客運送
- 広島コミュニティバス
離島地域である広島地区を走行する自家用有償旅客運送
- 琴平線
琴平町と善通寺市、丸亀市を走る民間事業路線

○航路

- 本島汽船 : 丸亀～牛島～本島
- 備讃フェリー : 丸亀～広島～小手島～手島
- 六口丸海運 : 本島～児島

○タクシー

市内6事業者

地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

丸亀市の公共交通ネットワーク図



丸亀市地域公共交通活性化協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(令和6年度)

協議会の構成員

琴参バス(株) 丸亀タクシー組合 NPO法人石の里広島
本島汽船(株) 備讃フェリー(株) 高松琴平電気鉄道(株)
JR四国 丸亀市老人クラブ連合会
丸亀市身体障害者福祉連合協会
丸亀市コミュニティ協議会連合会
丸亀市民生委員児童委員協議会連合会 丸亀市観光協会
丸亀商工会議所 丸亀市PTA連絡協議会
学識経験者 公募委員
四国地方整備局 四国運輸局 香川県 丸亀警察署 丸亀市

前年度の事業評価における課題

(本島コミュニティバス)

バリアフリーに配慮した車両の導入や島民の生活にあったダイヤの設定について検討する。

また、収支率向上のため情報発信を行い来訪者の利用促進を図る。

(綾歌宇多津線・丸亀東線)

・地域の実情にあった運行ルート・バス停の位置の検討や利用者の意見を集約し利便性の向上に努める。

・バスロケーションシステムの乗降センサーを活用し路線運行の効率化を検討する。

・GTFS-JPにてオープンデータ化に取り組み情報発信に努める。

定量的な目標・効果

(本島コミュニティバス)

目標

利用者数を3,650人以上(令和4年度実績3,007人)とする。

効果

陸地部への公共交通ネットワークと連携することで、島民の通院、買い物などの交通手段となり、高齢者などの外出機会の確保・創出につながる。

また、交通空白地を少しでも減少でき、外出促進、地域活性化にもつながることが期待できる。

(綾歌宇多津線・丸亀東線)

目標

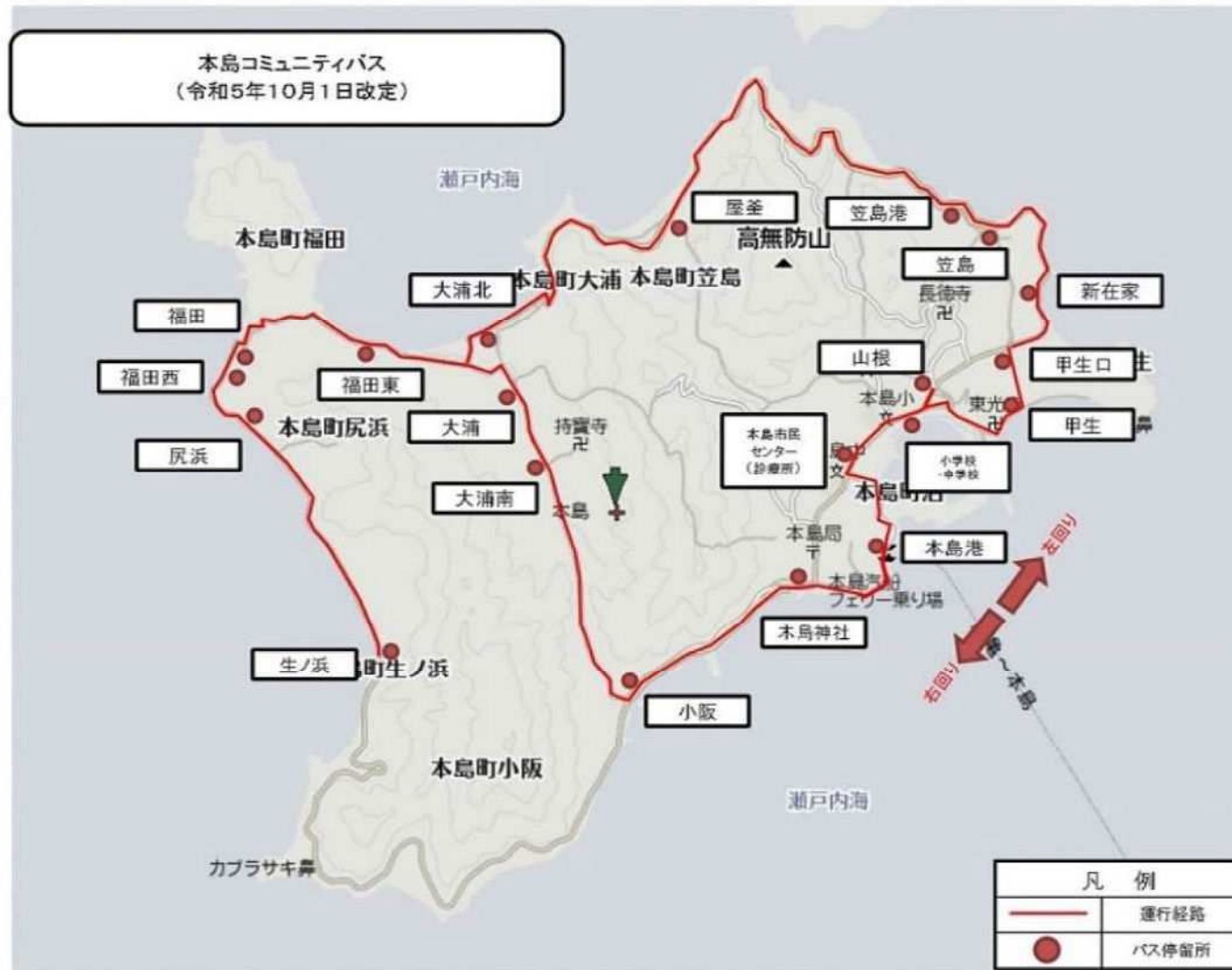
利用者数を綾歌宇多津線は42,160人以上(令和4年度実績36,151人)、丸亀東線は32,370人以上(令和4年度実績30,920人)とする。

効果

綾歌宇多津線、丸亀東線を維持することにより、学生や車を持たない高齢者の移動手段が確保される。また、幹線、支線のネットワークが連携することで、効率的に運行体系が確保される。

また、交通空白地を少しでも減少でき、外出促進、地域活性化にもつながることが期待できる。

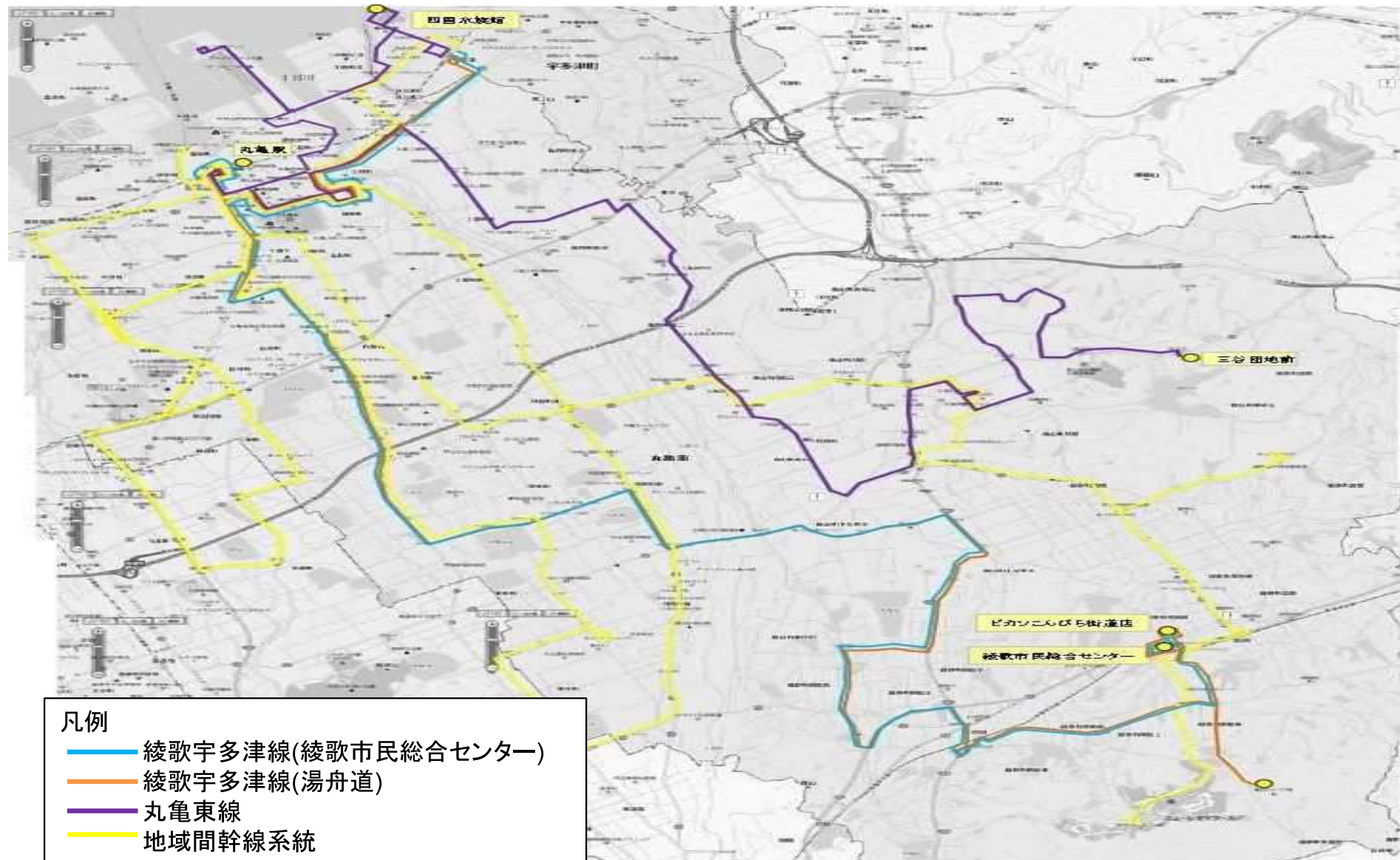
フィーダー系統図(本島コミュニティバス)



丸亀市地域公共交通活性化協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(令和6年度)

フィーダー系統図(綾歌宇多津線・丸亀東線)



「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

(本島コミュニティバス)

- ・島民との意見交換を行い、バス停の新設、運行ルートの変更を行った。
- ・航路との接続以外にも島内での移動に配慮したダイヤ設定を行った。(1日5便から6便に増便)
- ・Google Mapでの路線検索で英語標記を追加し、来訪者の利便性向上を図った。
- ・75歳以上の高齢者、毎月20日の運賃無料キャンペーンを実施し、利用者の拡大を図った。

(綾歌宇多津線、丸亀東線)

- ・利用状況により経路の見直しを行った。
- ・75歳以上の高齢者、毎月20日の運賃無料キャンペーンを実施し、利用者の拡大を図った。
- ・市内の小学校においてモビリティマネジメント教育を実施し、新規利用者の掘り起こしや啓発活動を行った。

自己評価

事業実施の適切性

(本島コミュニティバス):A

- ・計画通り事業は適切に実施され、目標利用者数を上回る結果となった。

(綾歌宇多津線・丸亀東線):A

- ・計画通り事業は適切に実施され、目標利用者数を上回る結果となった。

「定量的な目標・効果」の達成状況

(本島コミュニティバス):A

- ・利用者数は目標の3,650人に対し、4,234人であり、目標達成率116%であった。

(綾歌宇多津線):A

- ・利用者数は目標の42,160人に対し、52,365人であり、目標達成率124.2%であった。

(丸亀東線):A

- ・利用者数は目標の32,370人に対し、46,478人であり、目標達成率143.5%であった。

今後の事業に向けた改善点

(本島コミュニティバス)

- ・利用者の高齢化により、バリアフリーに配慮した車両や、航路との接続以外にも島民の生活にあったダイヤの設定について検討する。
- ・収支率向上に向け、ホームページやGTFSデータを活用した情報発信を行い来訪者の利用促進を図る。

(綾歌宇多津線・丸亀東線)

- ・クーポン付き企画乗車券の導入を検討する。
- ・新規利用者の開拓を図るための事業に取り組む。
- ・引き続きバスロケーションシステムの乗降センサーを活用し路線運行の効率化を検討していきたい。
- ・GTFS-JPのオープンデータ化に取り組み情報発信に努める。

その他PRポイント

- ・令和3年3月策定の「丸亀市地域公共交通計画」に掲げた各事業について、関係者とともに進捗管理を行いながら取り組む。